

「みんなの・わたしの明德幼稚園」

今回、明德幼稚園 50 年以上の歴史の中で、さまざまな方々から明德幼稚園によせて、寄稿文をいただきましたので、ご紹介いたします。

~~~~~

明德幼稚園は、昭和 42 年設置許可の創立 53 年を迎えています。

この長い歴史の中で、園児だった子が親世代になり、そのお子様を通わせていただいている方が多くいらっしゃいます。

また、園児だった子が成長して、中学校の職場体験として戻ってきたり、明德幼稚園の職員になった方もいます。さらに、一度退職した職員も、その後さまざまな人生経験を重ね、再び明德幼稚園の職員として戻ってくることもあります。

愛され続けることには、理由があります。

~~~~~

2020年8月発行

もくじ

- ・ 千葉明德短期大学 由田 新 教授
- ・ 千葉明德短期大学 泉澤 文子 准教授
- ・ 千葉明德短期大学 池谷 潤子 准教授
- ・ 卒園生のお母さん 山上さん
- ・ 卒園生のお母さん 内藤さん
- ・ 卒園生のお母さん Mさん
- ・ 卒園生のお母さん Yさん
- ・ 卒園生 高橋由伸さん
- ・ 卒園生 小島瑠璃子さん
- ・ 卒園生 八木萌香 保育教諭
- ・ 卒園生 山田萌々香 保育教諭



1993 年頃撮影



2020 年撮影

由田新 教授から

子どもは、遊びを通して育つ

附属幼稚園では、子どもたちが「遊ぶ」ことをとても大切にしています。遊んでばかりいて、一体何になるの？ こんな思いの方もいらっしゃるかもしれません。しかし、幼児期には幼児期にふさわしい学び方があります。それが「遊び」なのです。子どもたちは「遊び」を通して、五感を働かせ、自分自身の経験として、様々なことを学びます。たとえば、砂場で遊ぶ中で、砂を固めたいときは水を適量かけたらいいい、川のように水を流すには高低差をつくるとうまくいくなどと、ものの性質や仕組みについて気がついていきます。これは実体験を伴った深い学びです。

遊びで育つ大切な学びはこれだけではありません。自分からやりたいと思って始め、途中で投げ出さず、採め事などを乗り越えて試行錯誤しながら遊びを進めていった先に、「やった」「おもしろい」といった達成感や充実感が生まれます。こういう気持ちの積み重ねの中で「もっとやりたい」「今度はこうしてみよう」という意欲や主体性が生まれてきます。そして、自己肯定感を育てることにつながります。他にも目標に向かって頑張る力、人とうまく関わる力、感情をコントロールする力等、さまざまな力が育ちます（近年、「非認知能力」と呼ばれ注目されています）。こういったものは、知識や技能

とは違って、目に見えないものですが、人が生きていく上で極めて大切なものあり、幼児期に育んでおきたいことです。いくらいろんなことを知っていても、意欲がなければ何も始まりません。遊びを通して、自分で学ぼうとする力、自分を自分で育てる力が育ちます。これからの AI 時代に必要とされる力でもあります。

昨年度から学生の教育実習で毎月伺っていて思うことは、附属幼稚園の子どもたちは人懐こい子が多いということです。今年度はコロナの影響で、7月から教育実習が始まり、先日伺うと4歳児5歳児の子どもたちは「前にも来たよね」「見たことがある」と声をかけてくれます。初めて出会った3歳児は「おばちゃん、何しにきたの?」と聞いてきます。降園時にバスに向かって歩いているときに会うと皆笑顔で「バイバイ」「さようなら」と挨拶してくれます。些細なかかわりですが、幼稚園教員をしてきた時のことを思い出し、「幼稚園はいいなあ」と思います。保育者の役割の一つに、「子どもたちのモデル」がありますが、子どもたちの姿は、まさに園の先生方がモデルとなっているのでしょう。

今年度は、園の研修にも参加させていただくことになりました。幼稚園教育要領が平成30年度から改訂され、その中に「教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動

を豊かにしなければならぬ。」と書かれています。園の子どもたちが豊かに生活できるよう、先生方と共に研鑽を積んでいきたいと思っています。

池谷 潤子 准教授から

附属幼稚園に寄せて

明德幼稚園では、1歳から5歳の子どもたちが緑豊かな園庭環境で遊び、のびのびと生活をしています。遊びを通して幼児期に必要な経験を積み重ねていくことはもちろんのこと、年長になると各クラスの話し合い（サークル）のなかで友達の話聞き、自分の気持ちを伝えることを大切にすることや、行事運営においても子どもたち一人ひとりの良さがいかされる取り組みをおこなっています。卒園児のご家族からは「明德幼稚園の子どもたちは小学校でも後伸びする」と言われていますが、子どもたちの学びや育ちを支えるのが保育者のあたたかい眼差しです。

短期大学との連携においては、春から新1年生が実習生として幼稚園を訪れ、1年間継続して同じクラスで実践的な保育を学ぶ場になっています。また、造形教育を担当する教員による子どもたちが400キログラムの土粘土で遊ぶ「あそぼうかー」プロジェクトや、2019年度幼児教育実践学会では「園庭改善から見えてきたこと」というテーマで、明德幼稚園過去7年間の保育実践について保育教諭と短大教員が共同で研究発表を行ないました。今後も、定期的な園内研修も短大教員と共に行なっていきます。

卒園生のお母さん から

中3、小5のお母さん 山上さん

卒園児の保護者として、「入学後の学業の遅れ」を心配する方は在園の保護者の中にもいらっしゃいますが、我が家の場合、在園中に育てていただいた「生きる力」や豊かな経験の中で自分の力で乗り越えようとする姿が見られました。

入学後、大なり小なり必ずつまづく場面はあります。それはどんな園を出た子も同じです。

その場面で、自分なりに考え、進んだり、もうひとがんばりできるかで、その後の学校生活は大きく変わっていきます。

最初の勉強でつまづくことが多い子もいるかもしれません。でも、小学校の勉強は（特に低学年は）、親が見てあげられませす。根気よく焦らずに本人のペースに合わせて進めていけば安心して学びを楽しんでくれる子もいると思います。

園で伸ばしてくれた能力を信じて、親も成長していければ、入学後の心配は減っていくように思いました。

卒園生のお母さん から

中1、小3のお母さん 内藤さん

明德幼稚園のたくさんの自然の中で、思いきり身体を使って遊ぶ事で子どものストレスも減りありのままの姿で過ごす事ができると思います。

好きな遊びをしていく中で、自分の頭や体を使って考え行動していく事で、人としてこれから生きていく上での大切なことを学ぶチャンスになります。

例えば、先生や友だちと一緒に何かを作る時(作品展など)、みんなで作り上げる喜びやうまく作れない・どうしようという感情だったり、こうしたら上手くいくんじゃないかと、みんなで考えたり意見を言い合ったりとする時があります。遊びの中でこういった場面を子どものうちからたくさん経験していく事で、自分で考えて行動できる責任ある大人になれるのではないかと思います。

世の中が便利になっている今、自分で考えることの大切さを感じています。

私の子ども2人が明德幼稚園でお世話になりましたが、小学生・中学生になった今も、幼稚園が大好きで戻りたいーい！！あの頃に！と言っています。

子ども達は今、色々なことにチャレンジして、一生懸命です。自分の伝えたいことはきちんと言葉にして伝え、困っている子には「どうしたらいいかな？」と一緒に考えていく優しさを持っていたり、大きく成長中です。心も体も。

それは、今思うと幼稚園で過ごした3年間の土台となっていると思います。

子どもも大きくなってきた今、改めて明德幼稚園の良さを実感しています。

「自由に遊んでいる」に、こんなに意味があると幼稚園に教えてもらっています。

「自由に遊んでいる」を見守る先生達。一緒に子どもの目線になって先生達も思いっきり遊ぶ。共に考えていく。どうしても困ったときにだけ、必ず手を差しのべてくれることで信頼関係も生まれ、子ども達は安心してありのままの姿で行動できるんだと思います。

昔と比べると思いっきり遊ぶということが少なくなっている中で、明德幼稚園は本当に有難いと思います。

豊かな人間になれると思っています。これからの時代に大切な、柔軟な大人になっていけると信じています。

卒園生のお母さん から

小6、小3のお母さん Mさん

何よりも広い園庭と裏庭（どんぐり山）があるのが魅力です。好きな遊びに打ち込めて、昨日の続きができる。長男は、大山こまに、長女は鉄棒にはまりました。

色々な先生に褒めてもらい、声を沢山かけてもらって自信につながっていき、その遊びをしたいから早く幼稚園に行きたいという姿になっていきました。

お母さんたちは、入学をゴールに考えがちだと思います。文字の読み書きができることや、イスに座ることが出来るということで、幼稚園を選びがちなのでは？と思うこともありますが、この辺りは、意見がはっきり分かれているように思います。

家で教えるのが大変、面倒（生活面、学習面）だから、園でやってほしいという声も親の中にはあります。保育後の課外（習い事）も重要視している人もいました。

我が子は、入学してイスに座って勉強をするということが、とても新鮮だった様子でした。

学校に入学すると本当に遊ぶ時間がない。木の実を食べたり、見たことのない虫に出会えたり、今どき、親の時代と共通している部分が明德幼稚園にはありました(子どもたちに、食べられる木の実を教えてもらいました！)。

親の中には、ただ遊んでいるだけ・放任と言っている人もいましたが、遊びの大切さがまだまだ伝わっていないのかなと思っています。

卒園生のお母さん から

22歳、20歳のお母さん Yさん

裸足で公園を走り回るようなうちの娘に合う幼稚園はどこか、色々な園を見学しました。思いきり走り回れそうな広い園庭と、自然に囲まれた環境に惹かれ、この園ならと思い入園を決めました。入園すると毎日、「今日は木登りをした」とか「今日は桑の実を食べた」など楽しそうに話をしてくれました。泥遊びをして、白いTシャツを茶色にしてきたこともありました。

戸外で自由に遊べる時間が多いことで、自然を肌で感じ、自分の興味がある遊びに集中して遊ぶことができていたようです。その中で、自然と友だちとのかかわりも学んでいたように思います。先生方も、その子の個性に合った寄り添い方をしてくださっていました。

勉強はいつからでも遅くありませんが、大人になってから大切な、自分で考えて行動すること、人とコミュニケーションを上手にとれるようになることは、この時期にしか学べないことだと思います。娘はやりたい仕事をみつけ、今、充実した日々を送っています。この土台となっているのは、明德幼稚園で過ごした日々があったからだだと思います。



1995 年頃撮影



1996 年頃撮影

昭和56年度・第15回 卒園生から

読売巨人軍球団特別顧問 高橋由伸さん

創立50周年を迎えられたことを、心より
お喜び申し上げます。

同世代の子供を持つ親として、成長する
我が子の姿に刺激を受け同時に育てること
の難しさも感じる日々を過ごしております。



子供の成長にとって何が大切か。

私なりに感じていることは、以下の3つです。

- ①物事に興味を持つこと
- ②好きなこと、興味を持ったものに対して積極的に挑戦すること
- ③成功体験を得ることによって自信がつき、さらなる向上心が芽生えること。また、失敗を経験することによって悔しさを感じ、次につなげる努力をすること

われわれ大人の役割は、何よりも子供たちが挑戦、体験できる環境を整えてあげることだと思います。

最後に、千葉明德短期大学附属幼稚園のさらなる発展と、
子供たちの輝かしい未来を卒園生の一人として心より祈念致
しております。

《幼稚園時代のスナップ》



写真は、高橋由伸さんより提供していただきました。

(創立 50 周年記念誌からの転載許可をいただきました。)

平成11年度・第33回 卒園生から

小島 瑠璃子さん

この度は50周年おめでとうございます。

明德幼稚園の節目にこの様な形で関わらせて頂く事が出来て、とても嬉しく思っています。

私が卒業してから十八年が経ちましたが、今でも毎日刺激的だった園での生活はよく覚えています。友達と山で木の間を縫って鬼ごっこをしたり、枝をお箸にして銀杏をひろったり、お泊まり会でカレーをつくったり、泉谷公園まで短大のお姉さんと遠足したり。今大人になって振り返ってみると、先生達は行事づくしで大変だったのではないかと思うくらい、色々な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。



二年ほど前に私と同じく卒園生である弟と園に伺わせて頂きました。自然に囲まれたのびのびしたお庭や校庭はそのまま変わらず、建物は新しく綺麗な楽しい空間に生まれ変わっていました。先生達も会いに来てくださってとても嬉しかったです。アットホームで優しい園の雰囲気思い出せて、幸せな時間でした。

家から少し距離はあっても、子供らしく走り回って全力で遊べる環境を。と、明德幼稚園を選び通わせてくれた両親に感謝をしています。

三年間、身体全体で吸収した色々な経験は、今の私の糧になっています。

また、遊びに行きます。

《幼稚園時代のスナップ》



《平成 26 年来園》



写真は小島瑠璃子さんより提供していただきました。

(創立 50 周年記念誌からの転載許可をいただきました。)

卒園生 から 明德幼稚園の先生に

ハ木 萌香 保育教諭

私は幼稚園時代の3年間を過ごした明德幼稚園で、保育者として働いています。自分が育った幼稚園で働きたいと思ったのは、その3年間が「自由な活動」や「自然との触れ合い」に満ち溢れていたからです。

登園して着替え、出席シールを貼るとすぐに遊びにいていた印象が非常に強く残っています。広い園庭で自然に囲まれてのびのびとかけまわったり、虫探しをしたりと自分がやりたいことを自由に行うことが出来ました。

自分が保育者として働くようになって、それらはより進化しているように感じます。まず、手作り遊具の種類や数が増え、子どもたちの活動の幅はより広がっています。また、園庭が芝生になっており、自由に駆け回り、ときに転んでしまったとしても怪我の心配も減っています。そして、四季を感じさせる木々も増え、それぞれの名札を見て名前を覚えたり、木になっている実への関心も深まっています。

自らがやりたいと思ったことを実現する、そんな「主体的な活動」が明德幼稚園では出来ます。私はここで幼少期を過ごせたことを、今でも本当によかったと思っています。

卒園生 から 明德幼稚園の先生に

山田 萌々香 保育教諭

明德幼稚園の良いところは、自然豊かな園庭で、のびのびと好きな遊びをみつけて楽しむことができる点です。私自身、明德幼稚園を卒園して16年が経ちましたが、この自然環境や遊び中心の保育は今も変わっていません。

泥まみれになって遊んだ経験、ザクロやグミの実など初めて出会った木の実、さまざまな季節の行事など、園での思い出は鮮明に覚えています。今思うと、ただ広い園庭で遊んでいたのではなく、当時の幼稚園の先生が、それぞれの子どもたちの好きな遊びに寄り添いながら、遊びを深めてくださっていたのだと感じています。

そんな思い出の詰まった幼稚園にまた戻り、今度は保育者として働けることをとても嬉しく思います。今、目の前の子どもたちが大人になっても、“明德幼稚園楽しかったな”と思い出せるくらい充実した園生活を送れるよう、これからも子どもたちと共に楽しんでいきたいと思っています。



1998 年頃撮影



2018 年撮影